

令和 3 年 度 学 校 評 価 一 覧 表 ② 群馬県立渋川青翠高等学校

(様式 2)

評価対象	評 価 項 目	針 針 盤 具 体 的 数 値 項 目	達 成 度			改 善 状 況 の ま と め	学 校 関 係 者 評 価	次 年 度 の 課 題	
			①	②	③				
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動（授業等）を行っていますか。	① 総合学科高校として特色あるキャリア教育活動に満足している生徒が80%以上である。	B	B	B	・系列・科目ガイダンスを充実させるとともに三者面談により、多くの生徒が納得した選択を行うことができた。外部との交流等が限られながらも、代替えの行事やオンライン等を活用することで実施することができた。	・引き続き個々の生徒に応じたキャリア教育を継続して実施できるようにしてほしい。総合学科の仕組み、教育活動の内容を保護者に伝える工夫をしてほしい。	・系列の特色をより充実させられるよう問題点を把握し改善を図る。渉外部と連携し保護者への研修会などを通して教育活動を伝えていく。	教務部・進路指導部
		② 学校の諸活動に意欲的に取り組んでいると感じている生徒が75%以上である。	C	C	C	・それぞれの生徒が各活動に積極的に参加するよう促し、振り返りなども行ったが、さらに意欲的に取り組む姿勢を促せるよう改善を検討したい。	・有意義な高校生活が送れるよう、個に応じた支援を行ってほしい。	・学習活動の充実とともに、部活動、学校行事等により生徒が積極的に関わり、達成感が得られるような取り組みを実施する。	
	2 生徒の主体的な学びを引き出す「総合的な学習の時間」（総合研究）を行っていますか。	③ 一連の学習活動（課題設定、調査・研究、まとめ、発表等）を主体的な学びであると自己評価している生徒が80%以上である。	D	C	D	・「産業社会と人間」、総合的な探究の時間である「総合学習セミナー」「総合研究」について、多くの生徒が主体的で意欲的に取り組み、自分自身についてまたは自身の興味のあるテーマを深く考え、それを発表につなげることができた。	・生徒の課題発表に対してしっかり取り組む様子が見られた。引き続きこの取り組みが維持できるように生徒が主体的な学びが実感できる授業を提供してほしい。	・これまでの蓄積を踏まえ、新2学年の「総合的な探究の時間」への移行をしっかりと行う。学習成果発表会の更なる充実を図る。	
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	3 基礎・基本の定着を図る指導が充実していますか。	④ 学習に対する達成感・満足感をもっている生徒が85%以上である。	D	D	D	・毎日の学習活動の中で、ICTの活用等や学習指導の改善を図った。基礎・基本を定着させ、検定や資格取得に取り組むことで学習に対する意欲をさらに高められるよう改善を図りたい。	・引き続き学習に対して達成感や満足感を生徒がもてるよう、ICTの活用などや学校の特色を生かした対策の工夫をしてもらいたい。また、家庭学習を増やす対策をしてほしい。	・授業時間の確保を図り、学び直しや学習習慣の確立を目指す。ICTの活用や効果的な学習指導を推進する。また、観点別評価のための研修等も実施する。	
		⑤ 目標の資格取得を果たした生徒が60%以上である。	A	A	A	・系列や科目の選択を自己の目標と合致させることで、目標の達成目指し活動することにより、周囲からも認められ、達成感や満足感のある生活を送ることのできた生徒が多かった。	・多くの資格検定で生徒の努力が見られが、引き続き資格取得が拡充されるよう努力してほしい。	・各生徒に目標設定を促し、日々の授業内容の定着を図り、計画的に資格取得が実現できるよう支援する。	
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑥ 職員会議や学年会議において、生徒に関する情報交換を月に1～2回程度行っている。	A	A	A	・引き続き、生徒の活動をきめ細かく観察し、良い変化についても情報共有する。	・今後も情報共有と組織的な対応に努めてほしい。	・引き続き校務運営委員会・学年会議等を定期的に開催するとともに、教職員全員が組織的な対応を常に意識して、情報共有を図る。	生徒指導部
		⑦ 部活動や学校行事に積極的に参加している生徒が70%以上である。	B	B	B	・部活動顧問及び学級担任間との連携を図り、途中退部者生徒を減らせるように努める。	・部紹介、部活動見学の時間を十分確保することで、部活加入生徒を増やし、活性化につなげてほしい。	・昨年度に引き続き部活加入率が低下した。来年度は、部顧問による新入生の確保と学校全体で積極的な勧誘に努めたい。	
	5 生徒は規則正しい学校生活を送っていますか。	⑧ 基本的生活習慣を身につけ、服装髪型など身だしなみがしっかりしている生徒が90%以上である。	B	C	C	・今年度制服の着崩しを防止することをを重点的に行い、改善されつつあり、学校全体が落ち着いた雰囲気になった。今後も継続的に、毅然とした態度で指導していきたい。	・地域で見る青翠生の身だしなみについては、特に問題ないので、引き続き指導をお願いしたい。また、授業への取り組みに問題がある生徒及びそれに対する教員の指導の改善に取り組んでほしい。	・昨年度からの継続的な頭髮指導に重点を置いて指導し、大幅に改善が見られた。来年度も引き続き、指導を緩めることなく、教職員全体で取り組んでいきたい。	
		⑨ 家庭と連携を図ることで、生徒の遅刻者数は、1日平均1%以内である。	D	D	D	・今年度は遅刻指導を重点的に行っていることもあり、時間を守る意識は向上しているように感じる。引き続き、学年と連携して指導していきたい。	・家庭との連携をより密にして、改善につなげてほしい。複数回の欠席・遅刻・早退の生徒を重点的に指導してほしい。	・保護者との連絡を密にするとともに、欠席・遅刻・早退の多い生徒に対する指導・支援に努めていきたい。	
		⑩ いじめの未然防止や早期発見に努めて、いじめの解消率が90%以上である。	A	A	A	・職員会議等で、教職員のいじめに対する意識向上を図った。いじめの認知に関する理解が深まったことで、早期発見、早期対応ができています。	・引き続きいじめ防止に向けて、アンケートなどに取り組んでほしい。	・来年度も定期的なアンケートを実施し、いじめの未然防止とともに、法に基づいた組織的な対応をしていきたい。	
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	6 計画的な指導を行っていますか。	⑪ 「自己の生き方」と「将来の職業」との関連を幅広く考えさせる活動を実施し、進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	C	B	B	・生徒アンケートでは進路について真剣に考えている生徒が92%、取り組んでいる生徒が67%となっており、昨年度に比べ改善が進んでいる。職員アンケートでも取り組んでいる生徒が76%と改善に実感が伴ってきている。3年間の総合的な探究の時間の計画を見直し、職員間で共有することで生徒の実情に即したキャリア教育を実現していく。	・取り組みの成果が上昇していることから、今後も重要課題として位置づけてほしい。生徒の高い進路意識を行動に結びつけるための指導の工夫と具体的な支援の必要性を感じるので取り組んでほしい。	・進路について「真剣に考えている」と回答した生徒が大半を占めており、引き続き生徒の進路希望に合った具体的な取り組み方を指導できるよう、進路指導部と担任との連携をより一層強化していく。	進路指導部
		⑫ 生徒の将来の志望について理解している保護者が80%以上である。	C	B	C	・保護者アンケートでは「子どもの進路志望について理解している」の回答が89%あるが、職員アンケートでは71%と低くなっている。保護者・教職員間の共通理解を計るために、3年間の進路指導計画をより一層の工夫が必要である。	・保護者の調査結果は概ね良いものが得られている。これからも学校側からの積極的な呼びかけを継続してもらいたい。	「生徒の進路希望について理解している」と回答した保護者は89%を超えたが、その他9%弱の保護者の意識を変える働きかけが必要である。	
	7 適切な進路情報を提供していますか。	⑬ 「進路だより」を定期的（年間12回）に発行している。	A	A	A	・進路の手引き（1・2年生用）や進路ノート（3年生用）の情報に即した進路情報を毎月更新していくとともに、臨時発行（求人情報、進路体験記等）を加えて、配信したい。	・定期的に発行され、情報が家庭に伝えられていることが分かった。	・担当者が代わっても、生徒、保護者に必要な情報を提供し、進路意識の啓発を心掛けた情報発信を継続する。	
Ⅴ 日常的な相談活動が充実していますか。	8 組織的・継続的指導を行っていますか。	⑭ 定例会議を月1回以上開催する。	C	B	B	・定例会議は、文書による情報共有も含めると月に1回以上は実施できた。	・情報を共有していくことから短時間であっても定例会議を月1回もつ必要性を感じる。今後も密な連携をとってほしい。	・年度当初に最低月1回の定例会議を設けるように日付を決定し、必ず係内の話し合いをもつようにする。	教育相談係
		⑮ 教育相談通信・スクールカウンセラー通信を月に1回発行する。	A	A	A	・各月毎に生徒が安心する紙面作りを心掛けた。具体的には、生徒が抱える問題について、関連する本を取り上げるなどして、問題と向き合えるような情報提供をした。また、発行を輪番制にしたことで、内容の幅も広がった。SC来校日は、通信でも情報発信したため、保護者からのカウンセリング依頼も増えている。	・定期発行され、情報が生徒だけでなく家庭にも伝えられていることは評価できる。	・外部機関からの精神保健に関する記事や保護者からの感想などを掲載し、内容の充実を図る。	
		⑯ 転退学者数を前年度より減少させる。	D	D	D	・生徒情報カードの見直しを図り、迅速かつ円滑な情報共有ができた。そのため、各学年職員と協働して生徒の状況に応じた措置をとることができた。12月末時点では、前年よりも転退学者数が増加してしまった。	・難しい問題ではあるが、スクールカウンセラーとともに連携して、少しでも問題解決を進めてほしい。	・生徒情報カードを活用し欠席者や心に問題のある生徒の情報交換を早めに行い、初動を早くし、早期に問題を解消できるようにし、転退学者の抑制を図る。	
Ⅵ 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑰ 学校の教育活動を地域及び関係機関の方々に理解してもらうために「学校公開」を年3回実施している。	B	B	B	・一日体験学習会・学校説明会等の広報活動をおこない、オンラインで系列や学科紹介の動画を配信するなど充実させた。Webページを随時更新し、情報発信を行うとともに、市や市の広報等にも協力を依頼した。	・学校公開等が充実しており、地域に学校の取り組みを知ってもらうことができていると思われる。	・学校公開等の事前連絡や事後報告など、随時Webページの更新を行うとともに、内容を検討し、より良いプログラムになるように工夫する。	渉外部・教務部
		⑱ PTA総会、学年保護者会等に積極的に参加している保護者が60%以上である。	A	A	A	・PTA研修会や生活指導部会・広報部会ではPTA役員を中心に実施した。引き続き、オクレンジャーやオンラインを活用しながら学校への協力や理解が得られるよう努めていきたい。	・保護者の参加できる行事はできるだけ参加を促し、参加できない行事でも学校の諸活動に理解してもらえる工夫をしてもらいたい。	・Webページを利用して、PTAの活動の連絡や報告をより掲載することで、保護者への参加を促進し、家庭との協働意識を高める。	
	10 家庭、地域社会の教育力を活用していますか。	⑲ 保護者や地域社会の人を講師とした講演会などを年3回以上実施している。	B	A	A	・キャリア教育の充実として社会人講師を招き、オンライン講演会を実施した。卒業生を招いての進路講話をオンライン等を活用した実施も含めて計画したい。	・学校関係以外の社会人による講話は、生徒に良い影響を与えと思う。今後も魅力的な講演会を行ってほしい。	・本校生徒の実態に合った社会人講師を選定し、充実した実のある講演会等を企画する。	
Ⅶ 教育デジタル化に努めていますか。	11 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑳ ICTを活用した授業に満足している生徒が75%以上である。	A	A	A	・機器等の整備が概ねでき、学習用端末の積極的な活用ができた。特に、オンラインでの授業に成果を上げることができた。	・機器の導入により、授業での活用やオンラインによる授業を実践し、効果的な使用を進めてほしい。	・指導と評価の一体化を進める中でICTを活用しながら効率よく指導し評価へ反映させる。	
	12 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉑ オンラインによるアンケートを3回以上実施している。	B	A	A	・アンケートや行事の参加等は、ほぼオンラインで実施することができた。さらに多くの職員が携われるようにしたい。	・ICTを活用し効率的に業務を行っていると感じた。	・ICT活用は集約には有効的な部分もあるが、未回答や誤入力などへの対応ができるようなシステム作りを同時に行う必要がある。	